IWATE SECTION OF THE JAPANESE ALPINE CLUB



JAC岩手支部通信 第53号

(公社)日本山岳会岩手支部

発 行 2021年3月20日 発行者 阿部陽子 事務局 高橋勇一



令和3年度 ごあいさつ 岩手支部長 阿部陽子

新型コロナ禍の活動は、忘年会を中止にしたことが残念でしたが、ほぼ計画通りに事業を遂行できました。その中で3名(和泉由美、志田順悦、鳩岡美波)の新入会が加わり、活性化が一層進みました。ただし、本部や他県との交流は敬遠され、北アルプスへの支部遠征行事も実施いたしませんでした。このような事態は新年度も続くかと思われます。

昨年、ベテランの事務局長と編集担当が共に退任したため、事務の滞りなどを改善することは新年度の課題です。また特別事業補助金の活用で、スマホを使った地図読み講習会を実施し、登山技術の向上に結びつけたいと計画しております。人口集中がない等の点から、岩手はことしも独自の活動を探ってもよいと思っております。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

		目	次		
10月例会	和賀岳			· · 阿 部 陽 子	1
11月例会	二郷山			・・中屋重直	2
入会ご挨拶				・・澤野沙織	2
12月例会	七滝 •			••遠藤正子	3
1月例会	網張温泉	スキー場		・・西 村 幸 雄	4
2月例会	浄仏森			· • 澤 口 誠	5
令和2年度初冬期講習会					
兼指導者(コ	コーチ) 研修	会 • •		• • 高 橋 瑞 穂	5
3月例会	猴舞山・念	佛森 •		· · 高 橋 勇 一	6
編集後記				· · 熊谷加奈子	7
支部長のひと	り言③ ・			・・阿部陽子	7

1 O 月例会「和賀岳」1440m 阿 部 陽 子

●令和 2 年 10 月 10 日(土)

令和2年度の10月例会に「和賀岳」を計画 し、秋晴れ好日になりやすい10月10日を当 てた。盛岡からは県道1号線の新山伏トンネ ルを抜けると、いよいよ豪雪で知られる(旧) 沢内村の貝沢集落につく。



和標。山り火でれている。山り火でれている。山り火でれ

のではなく、断層によって形成された真昼山 塊の主峰である。かつては熊撃ちを生業とす るマタギか、せいぜいマニアックな登山者が 入る深山だったが、近年の開発と登山ブーム で、一般登山者が登るようになったという未 知の領域であった。

集合場所の貝沢砂防公園からは、標高 1320m の高下岳が肩を大きく張って起立する ため、和賀岳は望見できない。今回は、青森 支部で岩手支部会友の須々田さんが車中泊し て参加、都南山岳会の及川哲也さんが加わっ て総勢9名である。高下川沿いの林道は、砂 利道を3.5km進んだ場所で崖崩れが発生し たので、登山口まで約500m(7分)歩く。本来 の登山口より森さんを先頭に、加奈子・阿部 の順で急坂に取りつき後に男性6名が続いた。



「和賀岳は岩手山より厳しい!」とは滝浦さんの感想である。緊張をしいる長い急登降が連続するうえ、渡渉もあるし、クマの恐怖だって終始つきまとう。高下岳分岐を通過して、急な下りを30分しのいで標高720mの和賀川源流まで下る。この日は水流が穏やかなため、靴を履いたまま渡ってセーフだったが、問題は渡渉後に待ち受ける急登である。

いつぞやの大雨でえぐられた登山道は、その後の流水でさらに深く掘れていた。危うい縁を枝につかまり身をよじって1時間強、さながら苦行の形相だ。グループを分断しないようハイスピードは避け、できるだけ長休みせず、コンスタントな歩程配分を意識し、往路4時間30分で山頂に着いた。

一世の根も駒八池ま…が標ケは高の根も駒八池ま…が標ケに高のり岩峰やでっかの上がまま、連山望だいがありとは、1337mの上おりは出いる。ないコ部りとおりは、1337mの上おりがあります。



風速 14mの強風で視界ゼロ。休憩を含め、全 行程 8 時間 30 分かかった。

秋田側には、真木林道から入る薬師岳コースがある。かつて和賀岳は、「阿弥陀岳」と別称する信仰の対象だった。薬師堂をまつる薬師岳へ登って和賀山塊を眺めると、山頂は「大鷲」の頭部にあたり、1354mの「小鷲倉岳」と岩手側のコケ平は、バサッと広げた両羽に見える。そういえば、秋田支部の佐々木民秀氏が、和賀岳は「大鷲倉の別名をもつ」と、秋田県の山(山と渓谷社)に書いておられる。小鷲倉沢と大鷲倉沢は、北斜面から流れ込む和賀川の重要な水脈であることが、地形図からも読みとれた。

「30 年前に貝沢のマタギが作ったこのワ

カン、小ぶりなので女性に丁度いいサイズだ。 足にあったら阿部さんにあげるよ」と頂いた 道具は、マンダの木で作った美しい一品であ った。

貝沢と言えば、熊を狩猟するマタギが住む 集落を意味したし、和賀川源流部の雪中で、 獲物を射止める彼らこそが、冬山を生きぬく プロなのだ。手作りの軽いワッパは、急斜面 だろうが深雪だろうが小回りが利き、何より も命を守る道具として信頼できた。

このところ、MSR 社のスノーシューを履く 私だが、輪カンジキの温もりとともに和賀岳は、岩手の奥座敷として気高く鎮座している。 参加者9名:幹事=阿部陽子(L) 森・今田 熊谷(加)・澤口・斎藤・高橋(勇) 須々田秀美(青森支部)・及川哲也(一般) 滝浦(10/7 林道の下見)

1 1 月例会「二郷山」633.8m 中屋 重 直

●令和2年11月7日(土)

遠野市綾織に大きくそびえる二郷(ふたごう)山、東京スカイツリーと同じ高さであることと、釜石自動車道のトンネルが通ったこともあって、この山名を知る人が増えた。ただし、古く遠野物語に「縁起の悪い山なので決して立ち入ってはならない」と記述されてもいる。白い龍神をたくさんの蛇が守っているということでもあるらしい。

例会はまず綾織の「千葉家住宅」駐車場に 集合して、この山を展望しつつ、「東の麓から 登り、北峰と南峰を踏んで西側に下る」プラ ンを幹事から説明した。登ってならないとい う言い伝えのことは省いた。



帰りは林道を歩くことになる。その道は幅

が狭いし1km余の距離なので、鳴沢集落の陸橋下に乗用車3台を留めた。で、登山開始は山の東側麓、小友峠に向かう県道の右手に神社と駐車スペースがあるところから。ただし道はない。所によっては岩場をフリークライミングで越えねばならない。斜面には細ルッとで越えればならない。斜面にはボルッと滑り落ちる苦闘を強いられた。各自が自己るがあるが、体重を支えきれずズルグが自己のではまず尾根に上がってかられるとだ。だかいた。北峰は祠と宝剣が祀られて格調高い奥の院であったが、それにしても「お参りに来られるものなら来てみろ」といっているような登りだった。



あとは鞍部を経て 2 等三角点の山頂へ。さらに縦走の尾根へ慎重に読図を確認。カモシカの足跡をたどって大きく南面から廻りこんですでに廃道化した作業道を使って下山した。なお地形図に描かれた点線路 (林道)は確認できないので、ここを登る向きは注意されたい。参加者:幹事=中屋(L)・阿部陽子・澤口誠滝浦・齊藤・菅原(順)・高橋(勇)・高橋(瑞)森・熊谷(加)・澤野・幅下計 12名

入 会 ご 挨 拶

会員番号 16545 澤野 沙織(盛岡市)

私出いきの姫にあれていまりでした。



思えば、姫神山は我が子の学校行事で登山 した時「二度と登らないだろう」と思ったほ ど苦しい思いをした山でした。

同僚と登山した時は、何故かそんな思いも 忘れ「爽やかで気持ち良い」と思いました。 それから何度かいろいろな山に登るにつれ、 登山の楽しさに目覚めていきました。

友人と入会した、かわい山岳会から縁があって日本山岳会岩手支部にも入会し、ますま す山に魅了されています。



幼合しの中ろ付しま児うてででなき、と仕い自い事考になるにえるはれをすのい気試事

がとても大切であると考えてます。

ある日、6歳の子供達が岩手山を見て半数 の子が「富士山」と答えたのでこれはいけな い、地元の山をきちんと伝えていかなければ ならないという事を強く感じました。

これからもいろいろ学び研鑽を積みながら、 職場でも自然の楽しさを伝えていきたいと思 います。

12月例会「七滝」

遠藤正子

●令和2年12月12日(土)

12月のJAC岩手支部忘年会はコロナウイルス感染症の拡大でやむを得ず中止、例会の七滝山行と拡大委員会のみの実施となった。

12月12日、集合場所のフォレストアイで全員の出席を確認。事務局の高橋勇一さんの



マスクをつけて、地元の高橋時夫さんを先頭に(ガイドを兼ねて)七滝に向けて出発した。最初は車道を登山口にむかって上っていく。この時期としては雪も少なく歩きやすい。 4~5分進むと、道のわきに大きな温泉処理用のタンクが目に入ってくる。この温水を利用して、ハウスでバジルを栽培しているという。八幡平市ならではの自然エネルギーの活用と感じ入る。

ほどなく登山口前の駐車場に出る。1 台の 大きなワゴン車が止まっていた。クルマが大 きいのと、数字と英語のナンバープレートが 目をひく。ミサワというのが判読できた。先 客は三沢基地からきたのだろうか。

駐車場の登山口側には立派な登山届用の木造のポストが立っている。以前、蜂が巣を作って、熊に壊されたということだ。そういえばポストは少し新しい。何日か前の朝日新聞の耕論という欄に「隣人になった熊」「熊と付き合うには敬意を払いつつ管理と排除」などの見出しの記事がのっていた。今年は本当に熊の出没が多く、あちこちで話題になったが、山歩きをする者には熊との向き合いかたは切実な問題である。今日の一行は人数も多いし、それぞれに鈴をつけて「お隣さん」に敬意を表してはいるが、できれば出会わないようにと願うばかりである。

登山道は道幅も広く緩やかな登りで歩きやすい。20分くらいで車道が横切る十字路に着く。野鳥観察舎という看板が付いた2階建て小屋のような建物がそばにある。車道にはいくつかの轍の跡がついていた。県民の森を出発点とし、七滝のすぐそばまで続いているとのことである。

5分ほど休んで出発。登りは緩やかだが、 道幅は狭くなってきた。今の時期としては雪 が少ない。いつの間にか雨はやみ、葉の落ち た木々の間から雲の切れた青い空が広がりは じめていた。あれっ、と顔を上げると、岩手 山の稜線が見えているではないか。いつもの 遠望の姿とは違った冬特有の墨絵のような偉 容が迫ってくる。岩手県一の岩手山の懐に入 りこんできたようなうれしい気持ちだ。

しばらくすると、樹林は切れて、車道に出

た。左側には堰堤があり、そのわきの土手に登山道がついている。すぐにその斜面にとりつくが、あっというまに登り切ってしった。 それでもこの日一番の急登であった。

その後はまた林の中の平坦な道を前進する。 先頭の高橋時夫さんが「しーっ!」と言いな がら動きを止めた。同時に全員が声をひそめ ると、静けさの中に、沢の音が聞こえてきた。 にわかに活気づく。

出発から1時間ほどで七滝と書かれた標識 が立つ程よい広さの広場に到着。

ここで外国人の若者数人と行き交う。「コンニチハ」と日本語で挨拶をかわした。三沢からの人たちに違いない。

名瀑「七滝」は轟音とともに流れ落ちていた。素晴らしい眺めである。



まずは滝をバックに全員で記念写真を撮る。 その後は、備え付けのザイルをたどりながら 沢に下って滝の近くまで行ったり、頭上の岩 手山の稜線を眺めながら冬ならではの登山ル ートについてがやがやと話したり、行動食を 食べたりと、思い思いに楽しい時間を過ごし た。

10時 50分に、来た道を戻る。

11 時半にはフォレストアイに着き、青空の



も摂加たんき差とる。き原銀の近路の飯でででですが込ん人ののででがいる。

れた。ていねいに発泡スチロールの箱に入れてくれていたのでまだほんのり暖かい。おいしくいただきました。有難うございます。運

んでくれた滝浦弘美さんにも感謝。

13 時前に、全員が拡大委員会の会場である 八幡平ハイツに移動した。

参加者: 幹事=遠藤正子(L)・阿部(陽)・澤口 斎藤・高橋(勇)・高橋(時)・滝浦・川村・森 高橋(瑞)・平山(順)・熊谷(加)・澤野・中屋 計 14 名

1月例会「コロナ禍の定例会」

西村幸雄

●令和3年1月9日(土)明けましておめでとうございます

新型コロナウィルス感染拡大防止のため緊急事態宣言が首都圏 4 都県に発出されるなか、岩手県内での累計感染者数 417 名 (1/8 日正午現) 居ります。こういった状況下での定例会の開催でした。

雫石町 網張温泉スキー場 スキー場コンディション 天候:曇り 気温:-10℃ 積雪:130cm



09:30 スキーセンター内で、大友厚夫幹事より開会挨拶及び一般的な注意事項をうけゲレンデへ。土曜日とあって、各地域スポーツ少年団や子供会による親子行事参加者で結構賑やかでコロナ禍であることを忘れさせる。

準備体操からスキーの基本である、乗っている位置、「ハ」の字から制動操作、体重移動によるターン等々練習をみっちりと仕込まれる。

足下からは「キュッ、キュッ」と鳴る音が

気持ちよい。雪は前日より 70 cmも降ったと言う、気温が低いせいか圧雪したとしてもストックをつくと 20 cm位潜り込む。

昼食後はフリー滑走で午前の基本レッスン を思う存分に発揮し(?)パウダーを楽しみ ました。

14:30 幹事を囲んで懇談の後 15:00 解散しました。

参加者:幹事=大友厚夫・西村幸雄・畠 登 千葉善雄(会員外)計4名

2月例会「浄仏森」583m 澤 口 誠

●令和3年2月20日(土)

2月の例会山行で宮古市津軽石の浄仏森へ 行ってきました。

新しく出来た三陸自動車道で迷子続出。9時過ぎ全員揃った所で出発。集合場所から浄仏森が見える。下見では工事をしている赤前林道ギリギリまで車で行ったが、集合場所から 10 分くらいしか違わないので集合場所から歩くことにした。

舗装道路が終わると、赤前林道の入り口。



下見の時に行われていた護岸工事は終わっていた。ポイントとなる墓地の所でコンパスを合わせる。しばらく林道歩きなのでポイント作らず地図の道路変化点に合わせる。

春の気配を探しながら荒れ果てた林道を歩く。砂防ダム近くで小さなバッケを見つける。 渡渉ポイントで自分の位置の確認。これ大事。 自分の位置を知る箇所。

大きな林道から狭い林道へ。地図に無いが しっかりと浄仏森方面に作業道が続いている。 下見で付けたリボンが目立っていた。 標高 330m付近で獣道らしき踏み後を辿り 渡渉。突き当りまで行くと右に大きく折れる

道るれ分道う葉もあこ多業ろ落埋た

広めの



作業道を 435mまで行くと歩いてきた作業道 が消える。左手に尾根が見えているので一気 に尾根まで登りきる。風も出てきて少し休む と寒い。

そのまま尾根を登り詰め山頂を目指す。11 時 45 分無事山頂到着。下見に来た時プレート が無かったため、かまぼこの板を彫って作っ た看板を取り付け記念写真と昼食。

下山開始は12時30分。急な尾根には雪が

あるので慎 重に下る。



宮古にはまだまだ素晴らしい里山が沢山ある。浄仏森、素敵な山でした。

参加者 13 名:幹事=澤口(L) 阿部(陽)・中屋森・滝浦・澤野・熊谷(加)・高橋(勇)・和泉高橋(瑞)・鳩岡・志田・柳渡広子(一般)

令和2年度初冬期講習会 兼指導員(コーチ)研修会 高橋瑞穂

岩手県山岳・スポーツクライミング協会の 初冬期講習会兼指導員(コーチ)研修会が令和 2年12月5日~6日に三ツ石山(八幡平市)で 行われた。JAC岩手支部からは4名が参加し、 北上山岳会、岩手アルペンローズ山岳会、 滝沢市山岳協会、雫石町山岳協会、友愛病院 山の会の皆さんと一緒に勉強した。

松川温泉登山口からスタート、今年は雪が少なかったので夏道をツボ足で登り始めた。 松川大橋分岐から読図し、三ツ石山荘までコンパスを合わせて進んだ。途中から夏道をスノーシューで歩行し、約3時間で三ツ石山荘に到着した。

昼食休憩後、山頂までスノーシューで登る。 やはり雪は少なめで、例年のようなラッセル はなかった。先程まで晴れていた天気だった が、山頂では真っ白景色となってしまった。 三ツ石山の斜面でアバランチトランシーバー での雪崩捜索訓練を行った。アバランチトラ ンシーバーの使い方、埋没者の探知方法、救 出方法などを学んだ。探知するのに手間取る 場面もあり、繰り返し訓練することが大事だ と感じた。



下山しながらアイゼンでの歩行訓練も行った。天気も好転し、岩手山が見えた。

座学で COVID-19 についての講義を受けた。 夜の懇親会はコロナ禍であるため、各山岳 会毎に間隔を取り、交流は控えめにし、30 分 毎の換気も協力しながら徹底した。

他山岳会との交流が少なく残念であったが、 支部内での会話は盛り上がり、お酒が足りないくらいであった。森さんが準備してくれた 夕食も美味しくいただいた。勇一さんが夏の間に上げた薪を使用し、暖かい時間を過ごす ことができた。

二日目は朝からピカピカのお天気でモルゲンロートや朝日がとてもきれいだった。山頂では岩手山はもちろん、秋田駒ヶ岳や早池峰山などもきれいに見え、さらに素晴らしい景色を堪能でき、下山するがもったいないと思

うほどであった。

皆合もり習たや。はか、し多でおでります。まあいまがいかがあままがあります。まありますがある。まからないがある。まからないがある。



とうございました。

これからも安全に雪山を楽しみたいと思う。

3月例会「猴舞山 1089m・念佛森 666.9m」 高橋勇一

●令和3年3月13日(土)

例会山行にあたり下見を2度行った。1度目は11月14日(土)。集合場所の宮古市和井内ふるさと会館から、先ずは念佛森へ向かうことにした。

アニアの沢から山頂を目指し作業道を登って行ったが、この作業道がなかなかの急登。途中もう1つの目的の山である猴舞山が見えたが、とてもこの日のうちにたどり着けそうに無いと思われた。

今回は猴舞山(さろうまいやま)への縦走は 諦め、念佛森へ登った後に猴舞山へ通じる作 業道の状態を確認する為、三等三角点「猿舞 (さるまい)」まで歩いてこの日の下見を終え ることにした。

2度目の下見は11月23日(月)に行った。 今回はアニアの沢沿いに地形図には載っていない道を歩き、猴舞山を目指した。



前回の下見とは違い斜度も緩やかで歩き易い。途中には苔むした場所や見ごたえのある 滝があった。紅葉の季節に来てみても楽しむ

ことが出来るのではないかと感じた。また山頂に向かう斜面も笹が茂っており気持ちのいいものであった。



っていたこともあり、浄仏森ときたら念佛森 はやはり外せないということで猴舞山はまた 次の機会にということにしが、下山してみれ ば時刻は14時を数分回った程度。下見の甲斐 あってか思いの外早く下山できた。

これならもう少し早く出発していれば縦走 もできたかと思われ、少々悔いが残った山行 でした。

参加者 11 名:幹事=高橋勇一(L) 阿部(陽) 中屋・鳩岡・齋藤・澤野・森・和泉・志田 高橋(瑞)・熊谷徳明(一般)

下見:阿部(陽)・中屋・滝浦・熊谷(加) 澤口・高橋(勇)

★ 編 集 後 記 ★ 熊谷加奈子

今年度、下半期の支部通信となりました。 原稿執筆依頼につきましては、快く引き受け て下さり皆様の御協力に深く感謝を申し上げ ます。

今年度を振り返ってみますと、何と言っても歴史に残るコロナ感染症でしょうか。テレビでは、連日、感染者数、死亡者数、クラスター、緊急事態宣言等等、暗いニュースばかりが報じられ、いつ迄続くのか先の見えない不安と、もんもんとした閉塞感で息苦しささえ感じる毎日でした(現在進行形)

そんな中、感染対策を講じながらの例会山 行は、私にとって大きな励みとなりました。

今年度 私が影響を受けた山ベスト3

猫山:苦手意識の強かった宮沢賢治を再度 手に取るきっかけとなりました。何と、心打 たれる表現の数々。今、絵本を読んでいます。 絵本です。 念佛森、猴舞山:和井内の山ですが、この山の林道は、昔盛岡に通じる公道だったとの事。和井内、道と言う事で今さらながら玄翁館へ行き鞭牛和尚の功績に感動してきました。

岩手山:数十年ぶりで登りましたが、シラ



ネアオイに感動、日本一の山でした。そして何と言っても初挑戦のボッカ大将。ダラダラと吹き出す汗とじわりじわりと沸き上がる闘志。憧れのボッカポロに袖を通す事が出来て何よりのご褒美でした。

山での出会いが山の歴史、ストーリーに繋がり一味も二味も深みを増した山ライフでした。

支部長のひとり言 ③

「岩手山の薪ボッカ第2位」

岩手県山岳・スポーツクライミング協会 登山普及部が提案した岩手山8合目避難小屋の薪ボッカにエントリーし、澤口・阿部 勇一・森・加奈子・瑞穂・川村・澤野の8名 で総量282 kgを担ぎ上げ、団体戦の第2位 (報奨金3000円)を獲得した。ザック詰のコツは湿った薪を選ぶこと。これに私物が加わるので、小屋に着くとへ口へ口だ。薪10キロごとに1500円が個人支給されるが安価すぎる。でも10月例会の和賀岳は誰もが調子よい。さては「体力増強」これが最高のご褒美であったか!